

医薬品の包装シート誤飲に注意

高齢者を中心に、医薬品の包装シートを誤飲、誤食する事故が後を絶ちません。

【事例1】処方された薬を包装ごと飲みこんだ。喉が痛く救急車で病院に行ったが、喉仏の裏側に薬が引っかかってレントゲンでは見つからず、数時間かけて内視鏡で取り出した。
(80歳代男性)

【事例2】貧血検査のため内視鏡を飲んだところ、十二指腸球部にPTP包装が刺さっていた。取り出したが穿孔（せんこう）しており、手術した。
(90歳代女性)

～体内を傷つけ重症化も～

現在、販売・処方される薬（錠剤、カプセル剤）の包装シートは、1錠ずつに切り離せない構造が主流となっています。しかし消費者が携帯するためにハサミで1錠分に切り離してしまい、これが誤飲しやすいサイズであるため、事例のように包装ごと服用してしまうという事故につながっています。

▽体内を傷つけ穿孔のおそれも

薬（錠剤、カプセル剤）の包装は、プラスチックにアルミなどを貼り付けた「PTP（press through pack）包装シート」と呼ばれるものが主流です。PTP包装は切り離すと角が鋭利になるため、人体内部を傷つけることがあります。部位によっては穿孔するおそれもあります。

しかし痛みなどの症状が表れるまで誤飲したことに気付きにくく、誤飲を自覚せず体調不良などでレントゲン検査をしても、PTP包装の素材はX線を透過してしまいます。そのため内視鏡で探しながら取り出すことになり、身体への負担も大きいです。発見されにくく、発見が遅れると重症化するおそれもあります。

▽薬の包装シートは切り離さない

1996年以前のPTP包装は、縦横にそれぞれミシン目が入って、1錠ずつ切り離せる構造でしたが、錠剤と一緒にPTP包装を誤飲してしまう事故が頻発したため、1錠ずつに切り離せないようにミシン目を一方向のみとし、誤飲の注意表示を増やすなどの対策がとられました。しかし、その後も依然として誤飲事故は後を絶ちません。

事故を防ぐために、PTP包装シートは1錠ずつに切り離さないようにしましょう。また誤飲が疑われる場合はすぐに医療機関を受診しましょう。（参考=国民生活センターの2021年2月2日発表資料）

筆者ひとこと

食品や医薬品以外のものを間違えて口にする事故は、自身では気付かない場合が多く、家族や介護者等周囲の人が気にかけ、見守ることが大切です。
(県消費生活センター)